

奈良県観光戦略本部 平城宮跡周辺エリア部会（第4回） 議事概要

日 時：令和7年1月27日（月）9:30～11:30

場 所：奈良県庁本庁舎主棟 5階 第一応接室

出席者：部会委員長／内藤廣

部 会 委 員／青柳正規、磯部洋子(WEB)、鵜殿裕(WEB)、大木秀晃(WEB)、杉山尚美、
馬場基、平賀達也、藤本壮介、湯山壮一郎(WEB)

オブザーバー／柳澤秋介

1. 開会

2. 資料説明

3. 意見交換

（1）平城宮跡のあり方（案）

- ・農林水産省が示す資料のとおり、国内外で日本食に対する関心が高まっている。海外における日本食レストランの概数が2023年に約18.7万店と発表されているが、実際はもっと有り、専門店化している。
- ・今後、5年から10年で、食材、加工技術が興味を持たれるようになる。食のトレンドを踏まえてコンセプトを考えることが重要。
- ・2017年に文化芸術基本法が改正され、食文化の振興が新たに明記された。食文化として発信していくことも重要。
- ・ヌーベルキュイジーヌはフランス語で「新しい料理」を意味し、調理法・スタイルの一つで日本食の影響を受けている。徐々に本当の日本食が世界で広がりを見せている状況。
- ・現在は円安の恩恵もあり、日本の観光が初めての上昇気流に乗っている状況。観光にはサイクルがあるので、焦らず落ち着いて事業を進めることも考えるべき。
- ・日本食を学ぶには奈良に来ないといけないというような、日本食の精神を伝えるという視点が重要。
- ・奈良の生産者は食材の歴史を語るができる人が多いので、プライドを持って語るができる場をつくることで人とのふれあいの場とすることにもなる。
- ・平城宮跡の拠点自体を発信基地とするが、奈良県はそこからどこに行ってもいろんな人と触れ合える、いろんな場所で食文化だけではなく歴史や日本人の精神とか、今までのルーツを感じられる。この広がりがあればすごく面白い観光となる。
- ・日本料理が注目されている理由は、季節性があることや健康志向であること。エコロジカルの一つの象徴ともなっているため、ライフスタイルを含めトータルに発信するのがよい。
- ・奈良のスローな面や生き方も注目される可能性がある。
- ・薬草や漢方など、シルクロードの文化から紐づいたものを平城宮跡で食べる。生きた体験ができてくると、非常にオリジナリティがある。奈良時代の過去の歴史を振り返えられるような食、

食材が出てくると良い。

- ・以前、木簡に書かれた食材を使ったメニューを考えるイベントを、学生と実施したことがあるが、かなり個性がでて興味深いメニューが提案された。
- ・奈良工業高等専門学校や奈良先端技術大学など、産官学の連携についても触れるとよい。
- ・1つのお店だけを目的とするのではなく複合的な目的があると良い。世界でヒットしている事例として、タイムアウトマーケットのように2、3軒を回ることを前提とした横町のような施設もある。個店と面の両方を体験できるような形を検討してもらえるとよい。
- ・平城宮跡南側地区は事業イメージが持てたが、朱雀大路西側地区及び朱雀大路東側地区をどのように活用するかが難しいところ。
- ・モビリティなど、エッジがきいた最先端なものを取り入れるべき。歴史的な奈良と最先端を組みあわせるとおもしろいと思う。
- ・バスクやデンマークのノーマ、スペインのエル・ブジ等、食も最先端のものを組み合わせ提案できるとよい。
- ・奈良は自然災害に強いのが特徴であり、南海トラフ地震などの有事に旅行者や近県支援の拠点として公園整備を位置づけると官民連携の大儀が生まれる。また公園と周辺の川や寺院をつなぐ道などの上位計画を示す等、意識の高い民間企業を誘致する動機づけが必要。
- ・本事業を、防災の観点からブランディングに資するようなやり方ができると良い。ポジティブに、いろいろ積極的に提案することができるし、奈良は内地として災害時のバックアップエリアとして期待できる。
- ・奈良市の地域防災計画では、平城宮跡は広域避難場所に指定されている。また国交省と奈良市の間では、災害発生の際、平城宮いざない館である程度の帰宅困難者を受け入れる協定を結んでいる。
- ・導入機能については、地域の祭りを巻き込む仕掛けのような、面的な広がりを感じさせる内容を補強すること。
- ・部会の中間報告として、県議会へ、構想・コンセプト、導入機能を報告することを了解。

(2) 事業手法 (案)

- ・民設民営とするとき、行政が口を出しすぎることによりやりにくくなり、事業者が集まりにくくなる。県がバックアップしつつバランスをしっかりとることが大事。
- ・食の事業を進めるのであれば、この敷地だけでなく、奈良県として全面的に食をバックアップする取り組みを行い、その中で、平城宮跡でも事業化するという位置づけが必要。
- ・例えば食をテーマにした映画を撮って世界に発信したり、レストランの誘致を支援したりするなど、全ての事業を食に絡めるなど、トータルに実施するのがよい。
- ・サンフランシスコのフェリービルディングのように徹底的に監修、妥協せずにメッセージを理解頂ける企業に入って頂くなど、5年10年経ちテナントが変わっても、メッセージを県と共に、曲げずに守っていけるような選定の仕方が重要。
- ・Park-PFIなどの手法を活用し、都市公園事業として県が行う意義付けが必要。一つは、現在の建ペイ率が限られる中で何ができるかをしっかり考えること。
- ・広域計画や上位計画、建ペイ率や景観法などについて事務局で整理しておくこと。

- ・いろいろトライアルを実施して、細分化し、段階的に事業を進めることがよいと認識している。
例えば、奈良公園で実施したフードフェスには多くの来客があり、今度は平城宮跡も会場に加えるとよいのではないか。
- ・行政による民間企業の巻き込みについて、成功事例として富山市が挙げられる。機会があれば、職員の方の話を聞いてみるとよい。
- ・成功事例だけでなく、失敗事例を把握した方がよい。
- ・事業スケジュールには、埋蔵文化財の調査の期間を考慮する必要がある。調査範囲にもよるが、半年～1年程度は必要であるため考慮してスケジュールを考えること。

4. 閉会

以上